

人形



www.columnland.net

かけらもなく

ただただ、あやつられる

そのためにわたしは ここにうまれた

あたたかいこうぼうのかべ ほほえむ 未厭意図

おじいさんのえがおが ああ ああ ただ 意図未 うかぶ

あそこにいるときが いちばん ただ 厭意図 きもちよかった

いつまでも ずっと

でも

意図厭未 できない かなうことなどない

未厭意図厭未厭意図厭未厭意図未意図 わたしは、 あのことものもとへ

意図厭未厭意図

未厭意図未意図

すぐ 未厭 おくりこまれ 意図厭意図

意図厭未厭意図厭未厭意図厭未厭意図厭意図 うんめい きまつてしまったのだ

意図厭未厭意図厭

意図厭未厭意図 あれから へやのかたすみにある

意図 ちいさな おもちやばこのなか

未厭 ずっと ずっと、はこのなか

あやつられ 心をうしなうために

厭未

うまれた それだけだったのに

未厭意図厭未

心をもつから 未厭意図 つらい

厭未厭意図厭

心 厭未 もつ から 意図

未厭意図厭未

未厭意図厭未厭意図厭意図 くるしい 未厭

意図厭未厭意図未

ああせめて 厭未 せめて 未

未厭意図

いまいまい 意図 このいとを

未厭意図厭 きて ああ 未厭 きて

意図 そうしたなら 意図 ば

わたしはもう うごかず 未厭

ただのもくへんとなるが それでも

このままくるしみつづけるより

ずっと…ずっととらくなことだろう

ずっと…ずっとしあわせになるのだ

ああ、だからはやくこのいとをきり

わたしはにんぎょうとしていきたい

にんぎょうとしてしにたい

だから…はやく…

きて

Doll's Heart

あなたと初めて会った日のこと、

私は今でも昨日のここのように思い出せる

あの頃は私の方があなたよりずっと大きくて、

あなたはいつも私のことを見上げて笑いかけてくれたよね

でも、時が止まってしまっている私とは違って、

あなたはいつの間にか私より大きくなって：

かまってくれる時間が少なくなっちゃったのは

少しだけ寂しかったけれど、

私はあなたの成長していく姿を見ているのが大好きだった

そして、

大きくなれるあなたが少しだけうらやましかった

けれども、今は時が止まっているのも悪くないかな、って思う

だってこうして、あなたの子供とも一緒に遊べるから

あの子が私を見上げるその目は、

あの頃のあなたにそっくりで、ちょっと不思議な感じがする

あなたも最近、よくかまってくれるようになったよね

これはあの子のおかげかな

だから、

今日も私は大切にしてい

くあなたが私にしてくれているように

あなたとあなたの子供と、そしてとまった私の時間を

3人

3

3

3

3

3

8

無限なんてない。

マトリョーシカ

ある街に大道芸人の男がいました。彼が得意だったのは人形を使った芸でした。人形が自らの意志で動き出したかのように、糸を巧みに操り、人形を動かします。そして、とっておきの技が人形によるジャグリングです。さすがに人形の手ではボールは2つしか持てませんが、それでもその技は見事というものです。今日もその人形捌きを観に、大勢の客が集まりました。

公演が終わり、男は家に帰って今日の収入をチェックします。大切な人形を隣りに座らせて、お金を数えていると、お金の中に小さな石が入っていることに気づきました。それは、ほの温かい緑色の光を放っていました。彼はその石に心惹かれました。そして、特に理由もなく、そつと人形の手を握らせました。普段から一緒に頑張ってくれている人形にプレゼントを渡せた気分になり、男はなんだか嬉しくなりました。お金を数え終わると、疲れのせいかわからない、そのまま深い眠りにつきました。

翌日。昼過ぎに目を覚ました男は寝ぼけ眼でしたが、すぐに覚醒しました。なんと人形が自らの意志で動いているではありませんか。よく人形を観察すると、昨日手に握らせた石はなく、代わりに胸が緑色に光っていました。人形は男の元に近づきます。そして、お兄さん、ありがとう、と人形は言いました。その後も人形は今まで大事にもらったこと、一緒に大道芸ができて嬉しかったことなど、感謝の気持ちをたくさん述べました。男はそれを聞いて、思わず泣いてしまいました。

その後、男と人形は、自分たちの特技であるジャグリングを一生懸命練習しました。人形は男から教わる技をどんどん覚えていきました。しかし、男は人形をそのまま大道芸で披露することはしませんでした。というのも、自立して動く人形がいることが知られば、金の亡者が人形を奪いに来るかもしれないと思ったからです。そのことは人形も同意してくれました。だから、人形は今まで通り、糸で操られているように振る舞うようにして、男と大道芸を披露しました。もちろん、人形のジャグリングの腕は以前と比べ格段に上がっているので、投げ銭の量もうなぎのほりです。

ある日のこと。男は人形の胸の光が弱くなっていることに気づきました。そのことを人形に問うと、実はもう長くないんだ、と人形が答えました。そして、また初めて会話したときのように、男に感謝の気持ちを述べ始めました。男はまた泣きそうになりましたが、グツと堪え、そして人形の言葉を遮り、こう言います。俺達はジャグラーだ。己の想いはボールで伝え合おう。

人形を縛る糸はもうありません。二人は今まで練習してきた技を惜しむことなく披露していきます。見物客は、その光景に一瞬目を疑うのですが、二人の技の美しさに目を奪われ、ただただ拍手をし、歓声を上げるばかりです。また一つ、また一つ、二人は大技を決めていきます。しかし、ある演目に差し掛かったところ、男から投げられたボールを人形が取り損ねます。そして、人形の腕がだらんと下に垂れ下がりました。人形は最後の力を振り絞り、大きな声で言います。いつも以上にた……さん動いた……ら、もう疲れちゃった……。だ……らお兄さん……皆さ……に……。胸の光は消えていきました。男はすぐさま人形を抱き寄せ、人形の言葉を繋げるように、震える声で叫びます。皆さんに最高の演技をお届けいたします!!最後まで楽しんでいてください!!

その日の大道芸はかつてない歓声と拍手で彩られました。そして、男の隣には、嬉しそうに微笑む人形の姿がありました。

想いを繋げる放物線

言葉にできない

子供の頃は内気で、外に遊びに行くよりも家の中でよくおもちゃをいじって遊んでいました。今でもそうだけど、自分が楽しければそれでいい。そんな少し残念な子供。

好きな戦隊ものがありました。「忍者戦隊カクレンジャー」。世界の破壊を企む妖怪たちを、忍者の末裔の主人公が倒していくという内容。もう全然覚えていなかったけど、当時はカクレンジャーが僕の生活の全てだった。忍者ごっこをよく兄貴としてたつけ。

「スーパー隠大將軍」。それがカクレンジャーの合体ロボットの名前。誕生日に買ってもらった、60cmはあった超合金のナイスな巨大ロボット、これさえあればどんなに夜が暗くても一人でトイレに行けた。だってどんな妖怪も大將軍が倒してくれるから。もはや僕に敵はいないと思い込んでいました。

家が火事で全焼しました。揚げ物のせいです。だれも怪我人が出なくて済んだんだけどね。

鎮火後、荷物を整理しに現場に戻りました。危ないからと言われて僕と兄は外で待機していました。ある程度して父親が、僕たちの遊び部屋だった所から見つけました。

右半身が完全にとけきって、ホラー映画のようになってしまった大將軍のカタマリ。おもちゃ箱に入っていたのではかのロボットとの恐怖の合体を実現していました。世界を脅かす妖怪にも負けない、超合金のスーパーロボットたちの残骸。

その日以来、僕の世界からヒーローは消え去った。

6人

神様のドールハウス

「神様の視点から見れば、人間だって人形みたいなものなんじゃないかしら。地球がドールハウスで、人間が人形。そんな人間がドールハウスで人形遊びだなんて、ちゃんちゃらおかしいんじゃないかしら」

人形がそう話したのを、私は聞いた。

私の手の中には一つの人形があった。雑多な草を合わせて作られたそれはいかにも即席の様相を呈していて、要所要所を止めるのに使われた輪ゴムに収まりきらなかった草が時折ばらばらと地面に溢れおち、風に飛ばされていく。顔には無遠慮に詰め込まれたようにしか思えないビー玉がくぼみがちの瞳となつてこちらをただじつと見つめていた。ただただ透明なビー玉は裏にある草が透けて見えただけでも、色がついていないことが虚無を明確に主張しているように思えて、いつそこれが真黒な色でもついていればどれだけ薄気味悪さが紛れたことだろうと苦々しく思った。私はその人形に張られていた布を乱暴にはぎ取るとそれを光に透かすように翳してみた。自分の名前が書かれた布は見た目に反してずっしりと重く感じられる。妙な風合いを醸し出す字体を書く際に使われたインクはすっかり変色しているがそれは微かにもとの色の様子を未だに残していた。それはかつて自分が見た色だったから間違いは無いだろう。書くもの一つにまでこだわるところを見ると、この人形の作り主はかなり本気でこの人形を使つたに違い無い。

目の前の露出した木の幹を覗みつけるようにしながら、私は数年前の記憶を引っ張りだした。このような場合の対処法はどうだっただろうかと。だがそれもすぐに無駄だと思ひ至つた。こんな特異な状況、対処法があるようには到底思えない。私は泣きたくなつた。目の前が滲み、鼻の奥で水を吸い込んでしまった時のような刺激が走る。

数年前、呪いの力を知った時、おもしろ半分いろいろな人に対して実行したこと、報いが今ここに來ているとしか思えなかつた。私の名前を書いた布を胸に貼付けた人形が幹が見えなくなるほどに打ち付けられた銀杏の木の下で私はこらえきれずに嗚咽を漏らした。

8人

ビスクドールとセルロイド

暗い物置で待ち惚け
手垢付の波打つ髪と
豪華なドレスの襷は
埃が溜まり汚らしく

陶磁の肌の美しさも
集まる子供の羨望も
すっかり忘れた頃に
外の光が差し込んだ

あの子が入ってきた
自分の子供も連れて
子供は人形を連れて
人形だけが残された

動かない腕が折られ
粉っぽい破片が残る
関節が動く新入りや
無邪気な子を妬んで

昼と夜を繰り返して
まだうら若き彼女は
埃も溜まらぬうちに
ヒビが入り色褪せた

薄暗い部屋の中、視界の端で、こぼり、と翡翠色の液体に泡が浮かんだ。その部屋には、人間がひとりだけ立っていた。覚醒し始めた意識で、ぼんやりと考える。

ここは……どこ？

ワタシは……—

ヒトガタニンギョウ

あるところに、非常に精巧な人形を造る人形師がいた。

人形師の技術は既に人間の限界に達しており、彼の人形は、ともすれば本物の人間と見紛うほどの完成度を誇っていた。

しかし、人形師は満足しなかった。さらなる精巧な人形を求め、様々な分野の技術を修得した。

そして、人形師はとある叡智と邂逅することになる。

それは人にして人ならざる技法であり技術。それでも人形師は血のにじむような努力でその叡智を修得し、早速人形を造り始めた。

彼が学んだ叡智は魔術とも錬金術とも呼ばれ、それを用いて造られたのは、ホムンクルスという名の人間を模した人形であった。

薄暗い部屋の中、一人の人間が、そこにあるモノに向かって話しかける。お前は唯一意思を持つ人形だ。造っ

た私に何か言いたいことはあるか？

ワタシはその言葉を反芻する。

……人形？ つまり、人間に似ているだけの偽物……なら。

——どうしてワタシを造った。

人間になれもしないくせに、この人間はどうして精巧な人形を造り、そして造り続けるのか。部屋には大量の精巧な人形が並んでいる。この人間はこれだけの人形を造ってなお、ワタシという人形を造った。その意味が、さっぱりわからなかった。

やがて人形師は口を開く。

別に意味なんて無い。

ただ、寂しかったんだよ。

その言葉は、ホムンクルス——物を言う人形の中のどこかに染みてゆき、初めてその心臓部が、コトリ、と不随意な挙動を見せた。

時は流れ、人形師が老衰によって亡くなっても、定期的に手入れの施されていた人形は、綺麗な姿を保っていた。人形師の造る人形は精巧なことで有名だったから、みなそれを欲しがったが、そこで市場に彼の人形を売り出した娘がいた。

人形師に家族がいたという話は無かったはずだが、彼女は人形師の娘だと名乗っていた。

精巧な彼女は、今日も人形を売っている。

——その人形を必要とする、人間と言う存在のために。

人形屋

とある繁華街の路地を一つ入ったところにその人形屋はあった。その人形屋にひとりの男が訪れた。男は仕事もうまいかず、最近事故にあつて怪我もしていた。

「いらつしやいませ、ここはあなたの身代わりとなつたくれる人形を取り扱う人形屋でございます。人形を持っているだけであなたにふりかかる不幸な出来事を人形が代わりに受けてくれます。」

「どんなこともですか？」

「そうです。」

「わかりました、ひとつください。」

「お買い上げありがとうございます。人形はくれぐれも大切に取り扱いください。」

そうして男は帰つて行つた。

その後、男は事故にあつても奇跡的にほとんど傷を負うことなく、また仕事も順調に進んでいった。しかし、そのたびに人形が少しずつ痛んでいくことに男は気がつかなかつた。

男が人形を買ってから数年の歳月がたった。男は人形を買ったことなどすっかり忘れ優雅な暮らしを満喫していた。そんなある日、ぼろぼろになった人形をみつけた。

「なんだこのぼろ人形？ごみと一緒にでもやしてしまおう。」

そういつて男が火をつけた瞬間、男の体は火に包まれた……。

僕はきみの涙を拭えない

けれど、君のそばにすることはできる

人形→人間

Y 辻 ← Y 品

コンテスト結果

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
01	無題（マリオネット）	3 pt	8 位	5 sp
		糸×意図×厭と多重に意味を響かせたワザが秀逸でした。 せつないマリオネットくんの叫び、レイアウト力でぎっしり凝縮しての今週の表紙です。 それにしてもみなさん、深読みしすぎですってば。おかげで最多特別賞をさらいましたね、おめでとう!! 特別賞：こりすぎて分かんなかったよー賞 from S班（形が分からない……SMにしか見えない） SMで賞 from T班（SMっぽい）先週出しま賞 from U班（前回出せよ）人形補完計画 from Y班（リリースに見えた）もう少しキツクしばらくま賞 from Z班（抜け落ちそうー!!） イチオシフレーズ：「心」		
02	Doll's Heart	8 pt	4 位	0 sp
		ほんわか、なごみタイム。 「とまった私の時間を」というラストのフレーズが、ほんとに余韻ゆたかです。 人形もこんなふうに時を過ごしてゆければ、しあわせだなあ。 クリスマスにふさわしいハートウォーミングな光景でした。		
03	無題（マトリョーシカ）	5 pt	5 位	3 sp
		なんと！ただの数字にこんな魔法がかけられるなんて!! 特別賞もいっぱい来たけれど、こんなにニホンゴ部分が少ないのにイチオシフレーズ大賞をさらいました。おめでとう!! 特別賞：下揃えからTabキーで章 from R班（マトリョーシカ Can fly!?) 横から見たら∞で賞 from V班（無限なんてないと書いてあるけど） 3 賞 from W班（個人的な嗜好により） イチオシフレーズ：「無限なんてない。」×2 「3」「マトリョーシカ」		
04	想いを繋げる放物線	12 pt	1 位	2 sp
		絵本のページをめくるように、一つ一つのシーンが色鮮やかにくっきり展開されて、ラストは泣けて、ついでに作者ミスリードまで仕込んであって、まことにブラボーな今週のねっしーでした。おめでとうゴールド・メダル!!! 特別賞：作者がミスリード賞 from Q班（作者はジャグの人ではない（キリッ） 誰が書いたんで賞 from X班（誰が書いたのか？）		
		9 pt	3 位	0 sp
		子供の感覚をしっかりと再現している火事あと「恐怖の合体」シーンの見せ方が秀逸。 ヒーロー、こんなふう去ってゆくんだ。		

05	言葉にできない	ですます／であるの混在がちょっと残念。ゆったり「ですます」で読みたい文章です。 ミスリードさわぎの間隙を縫ってブロンズ・メダルです、おめでとうジャグラーさん!! イチオシフレーズ：「残念な子」「言葉にできない」
06	神様のドールハウス	5 pt5 位0 sp ラストの視点チェンジにびっくり。 神様視点に思いを馳せているところへ、まさに不意打ちずどーん。ここちよいオチでした。 なるほど、このセリフは神様の、なのですね。
07	無題（藁人形）	1 pt9 位0 sp 呪ったはずが呪われる身となって。 ビー玉の虚無、インクの色の人形さがし、こまかな描写に観察眼が光ります。やや説明不足の感があるけれど、ラストに立ち現れる「びっしり藁人形」のインパクトが巨大です。 この長さの文章だったら、タイトル欲しいなあ。 イチオシフレーズ：「布を乱暴にはぎ取る」
08	ビスクドールとセルロイド	1 pt9 位0 sp ビスクドール。まるで物置のメシになったかのよう。静寂と暗闇のなかで展開される虐待と殺戮。まさに戦慄のドラマを静かなカメラワークで見せていただきました。 文字数を費やさなくても、多くを伝える、そのお手本のような。
09	ヒトガタニンギョウ	12 pt1 位0 sp ホムンクルス。人形が人形を売るというストーリーの組み立てがおもしろい。泡が「ごぼり」、心臓が「コトリ」、効果音もリアルに効いてますね。 敢えて描かなかった人形師とクルス嬢との心の触れあいとか、想像力を刺激する部分が多いのも物語の奥行きになっています。 ときに遺産を全部売り払ったら、彼女はそのあとどうするのでしょうか。 で、はじめての首位？ この練達の書き手さんにしては何だか意外な気がしますけれど、おめでとう!!! イチオシフレーズ：「ただ、寂しかったんだよ。」
10	人形屋	0 pt11 位0 sp あやしいお店は路地の奥。定番設定ですね。 人は受けた恩義をこんなにもカンタンに忘れてしまう悲しい生き物なのさ。そんな寓意も入っていそうです。 ストーリーをコンパクトにまとめてグッジョブ。
11	無題（人形→人間）	4 pt7 位0 sp 人形の思い。それは逆に人間から人形へと寄せる思いでもあり。 そんなメッセージのこめられたタイトルだったでしょうか。 きれいに余韻を響かせて、今年の読み納めでした。よいお年を！ イチオシフレーズ：「人形→人間」

